

2018年度 決算概要

-
- I. 2018年度 連結業績概要
 - II. 2019年度 連結業績予想
 - III. 資本政策・株主還元
 - IV. 補足資料
-

シャープ株式会社
2019年5月9日

【見通しに関する注意事項】

本資料に記載されている内容には、シャープ株式会社及び連結子会社（以下、総称して「シャープ」という）の計画、戦略、業績など将来の見通しに関する記述が含まれています。これらの記述は過去または現在の事実ではなく、現時点で入手可能な情報から得られたシャープの仮定や判断に基づくものであり、これには既知または未知のリスク、不確実性及びその他の要因が内在しています。それらの影響により、シャープの実際の業績、事業活動、財務状況は、これらの見通しと大きく異なる場合があります。また、新たな情報、将来の事象、その他にかかわらず、シャープが将来の見通しに関する記述を見直すとは限りません。なお、業績など実際の結果に影響を与えうるリスク、不確実性及びその他の要因としては、以下のものが挙げられますが、これらに限られるものではありません。

- (1) シャープの事業領域を取り巻く経済情勢
- (2) シャープの製品やサービスの需要動向の変化や価格競争の激化
- (3) 為替相場の変動(特に、米ドル、ユーロ、その他の通貨と円との為替相場)
- (4) 諸外国における貿易規制等の各種規制
- (5) 他社との提携、アライアンスの推進状況
- (6) シャープに対する訴訟その他法的手続き
- (7) 製品やサービスについての急速な技術革新 など

※本資料の記載金額は、億円未満切り捨て表示としています。

※前年増減額等は、表示された億円単位の金額を元に算出しております。

I . 2018年度 連結業績概要

SHARP

1

- ・ 本日はご多忙な中、お集まり頂き ありがとうございます。
また日頃は、当社の広報(IR)活動にご協力頂き、まことにありがとうございます。
- ・ それでは、お手許にお配りしておりますパワーポイント資料に沿って、説明いたします。

2018年度 連結業績概要(1)

- ・ 米中貿易摩擦や大手顧客の需要変動など、年度末にかけて、想定以上に厳しい市場環境となる
- ・ 環境変化に先んじて「量から質へ」の転換を進めたこともあり、前年度を上回る最終利益と最終利益率を確保
- ・ 2016年度 第3四半期以降、10四半期連続で最終黒字を継続
- ・ A種種類株式の一部取得・消却など資本の質的向上に取り組んだ
- ・ 普通株式に 2017年度を上回る配当を実施

SHARP

2

- ・ まず、2018年度の連結業績の概要です。

2018年度は、米中貿易摩擦や 大手顧客の需要変動の影響などが強まり、年度末にかけて、想定以上に厳しい市場環境となりました。

- ・ 一方、当社は、環境変化に先んじ、第2四半期以降、「量から質へ」の転換を進めておりました。

こうした効果もあり、業績予想からは下振れしたものの、前年度を上回る 最終利益と 最終利益率を 確保することができました。

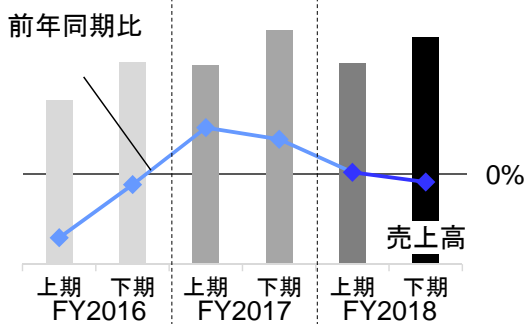
- ・ 四半期ベースでは、2016年度の第3四半期以降、10四半期連続で 最終黒字を継続しております。
- ・ このほか、A種種類株式を 一部取得・消却するなど、資本の質の向上にも取り組みました。
- ・ また、普通株式への配当につきましては、1株当たり 10円の増配としております。

2018年度 連結業績概要(2)

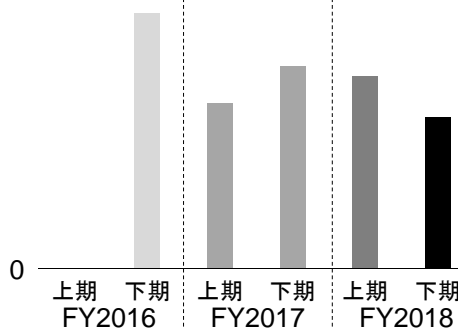
(単位:十億円)

	2017年度	2018年度				予想差	2018年度
	通期	上期	下期	通期	前年比		通期予想
売上高	2,427.2	1,129.0	1,271.0	2,400.0	-1.1%	-100.0	2,500.0
営業利益	90.1	47.0	37.1	84.1	-6.6%	-22.9	107.0
経常利益	89.3	43.2	25.7	69.0	-22.7%	-27.0	96.0
親会社株主に帰属する 当期純利益	70.2 (2.9%)	40.9 (3.6%)	33.2 (2.6%)	74.2 (3.1%)	+5.7%	-15.8	90.0 (3.6%)
平均為替レート							
ドル円	109.86	109.27	110.55	109.91			
ユーロ円	128.20	128.34	125.47	126.90			

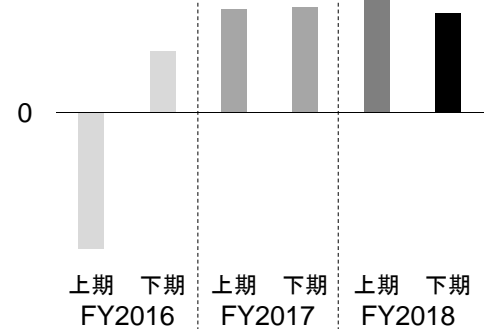
売上高



営業利益



親会社株主に帰属する四半期純利益



SHARP

3

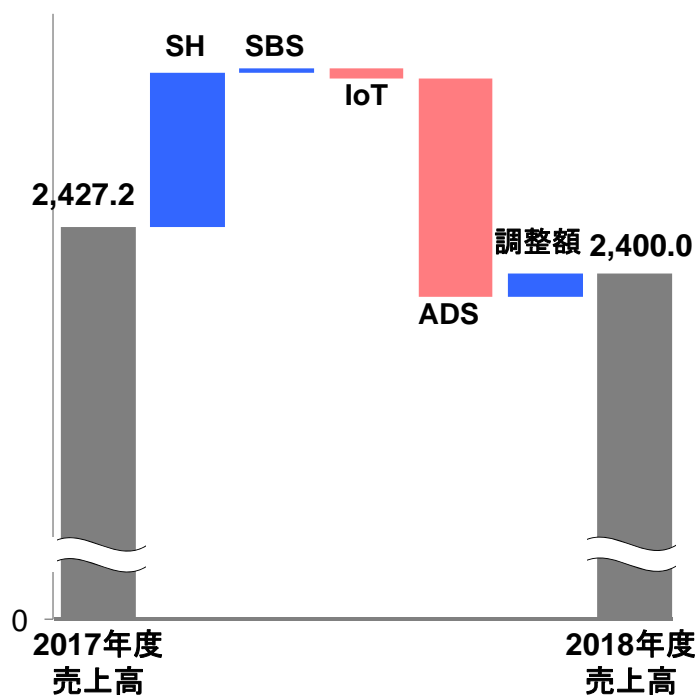
- ・ 次のスライドは、2018年度の業績数値をまとめたものです。
- ・ 「量から質へ」の転換を進めたほか、米中貿易摩擦や大手顧客の需要変動の影響もあり、売上高は、前年度比1.1%減の2兆4,000億円となりました。
- ・ 利益については、営業利益が6.6%減の841億円、経常利益が22.7%減の690億円となりましたが、親会社株主に帰属する当期純利益は5.7%増の742億円となりました。

環境変化に先んじて収益力の強化を進めたこともあり、厳しい市場環境下でも、前年度を上回る最終利益と最終利益率を確保することができました。

2018年度 セグメント別増減分析(対前年度)

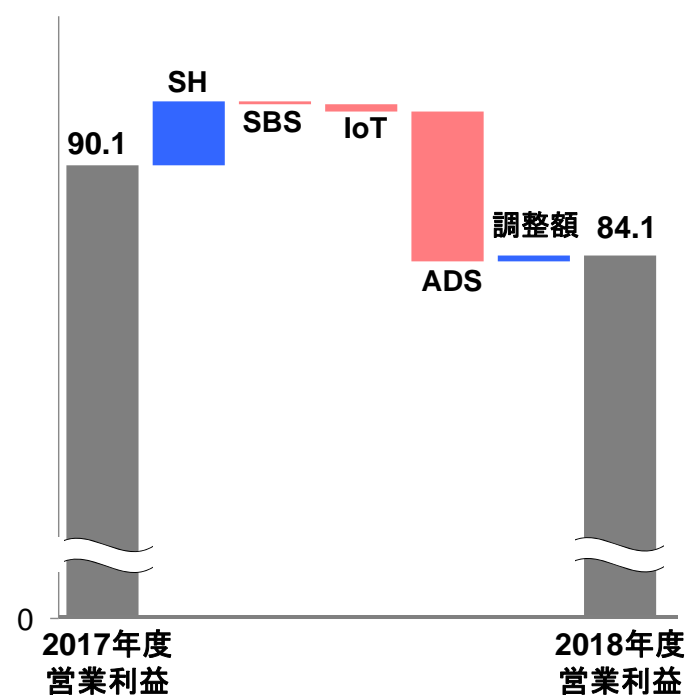
売上高

(単位:十億円)



営業利益

(単位:十億円)



SH :スマートホーム
SBS :スマートビジネスソリューション

IoT :IoTエレクトロデバイス
ADS :アドバンスディスプレイシステム

SHARP

4

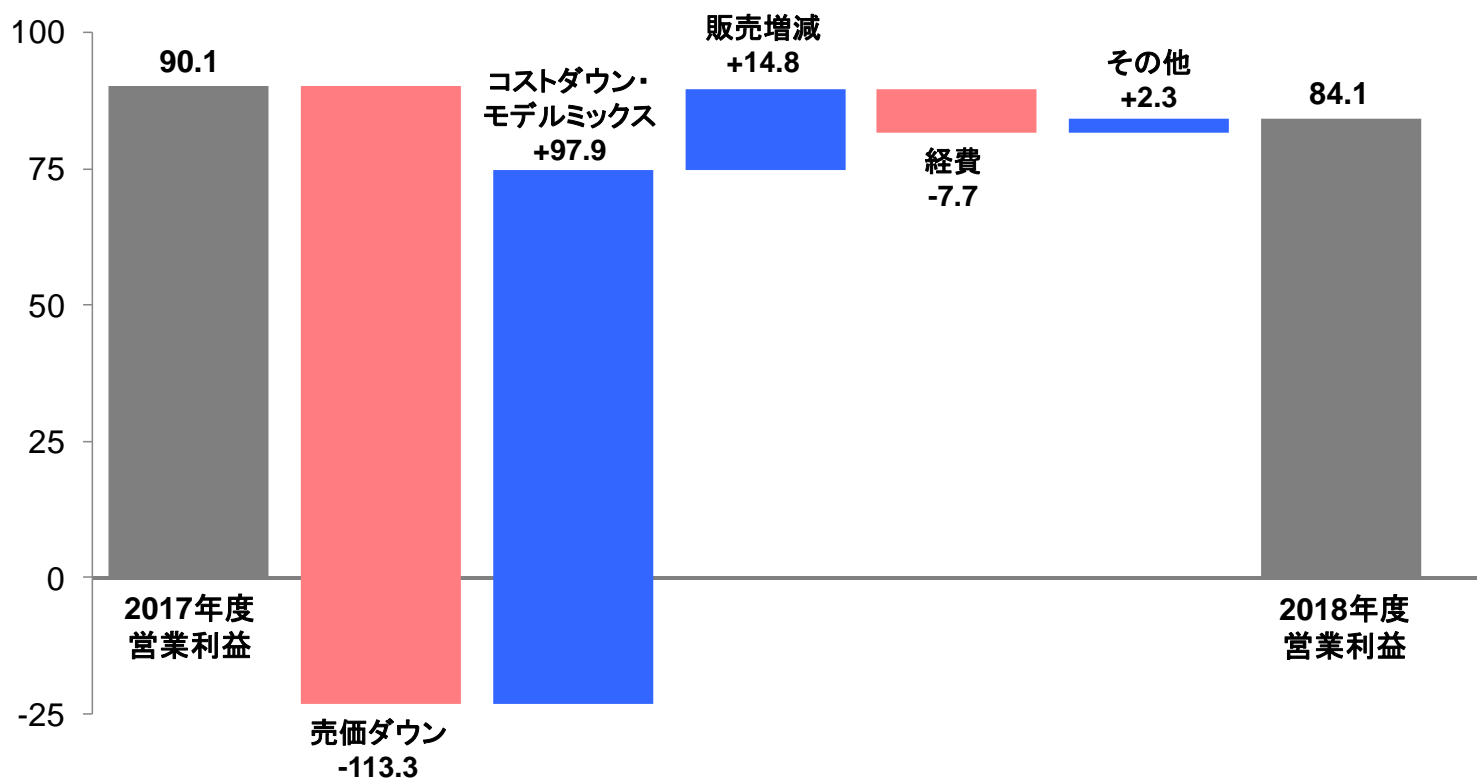
・ 次のグラフは、前年度からの売上高と営業利益の増減をセグメント別にまとめております。

・ 商品部門は、厳しい市場環境にあっても、堅調でした。ご覧のように、スマートホームは順調に伸長し、スマートビジネスソリューションも底堅く推移いたしました。

一方、米中の貿易摩擦等によりデバイスの顧客需要に変動があったこと、「量から質へ」の転換に向け中国でテレビの販売抑制を行ったことなどから、IoTエレクトロデバイスとアドバンスディスプレイシステムが全体を押し下げました。

2018年度 営業利益 要因別増減分析(対前年度)

(単位:十億円)



SHARP

5

- ・ 次のグラフは、前年度からの 営業利益の増減を 要因別にまとめております。
- ・ 前年度からの プラス要因としては、「コストダウン・モデルミックス」による 979億円の収益の改善や「販売増減」による 148億円の利益増がありました。
一方、マイナス要因としては、「売価ダウン」による 1,133億円の利益減、「経費」に係る 77億円の収支影響がありました。

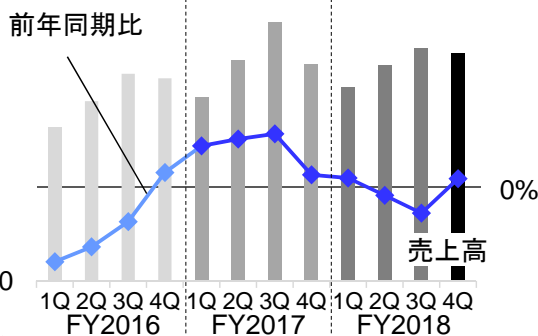
2018年度 第4四半期 連結業績概要

「量から質へ」の転換効果もあり、厳しい市場環境下、10四半期連続となる最終黒字を確保

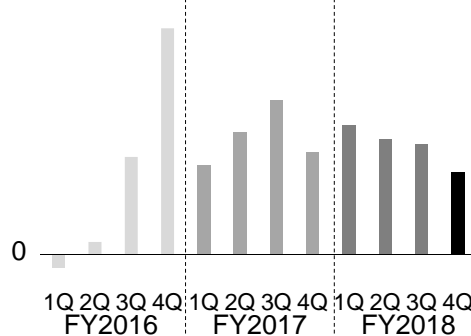
(単位:十億円)

	2017年度	2018年度				
	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	前同比
売上高	597.8	533.8	595.1	642.5	628.5	+5.1%
営業利益	19.7	24.8	22.2	21.2	15.8	-19.7%
経常利益	18.2	21.2	21.9	18.8	6.9	-61.6%
親会社株主に帰属する 四半期純利益	14.8 (2.5%)	19.2 (3.6%)	21.7 (3.7%)	22.1 (3.4%)	11.1 (1.8%)	-24.9%
平均為替レート						
ドル円	107.30	108.07	110.46	111.90	109.21	
ユーロ円	131.73	128.56	128.12	127.28	123.66	

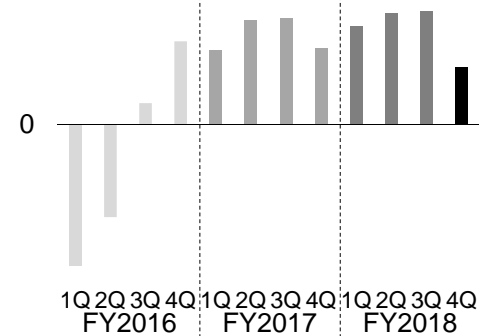
売上高



営業利益



親会社株主に帰属する四半期純利益



SHARP

6

- ・ 次のスライドは、2018年度 第4四半期の 業績数値です。
- ・ 売上高は、6,285億円となりました。
- ・ 利益については、
営業利益が 158億円、経常利益が 69億円、
親会社株主に帰属する四半期純利益が 111億円となっております。

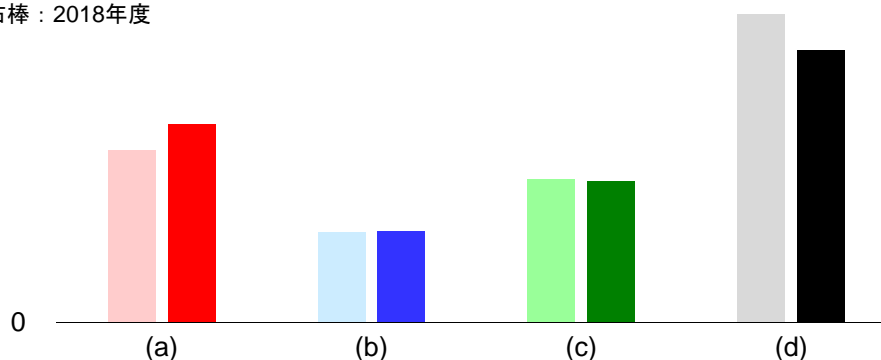
非常に厳しい市場環境となったものの、
「量から質へ」の転換を進めたことなどから、
10四半期連続となる 最終黒字を 確保できております。

セグメント別売上高

(単位:十億円)

	2017年度	2018年度					通期	前年比
	通期	上期	3Q	4Q	下期			
(a) スマートホーム	607.9	300.6	178.6	217.7	396.3	696.9	+14.6%	
(b) スマートビジネスソリューション	318.0	158.4	79.2	82.6	161.9	320.4	+0.7%	
(c) IoTエレクトロデバイス	504.5	250.8	137.7	110.5	248.2	499.0	-1.1%	
(d) アドバンスディスプレイシステム	1,086.5	458.2	267.2	234.1	501.4	959.6	-11.7%	
小計	2,517.2	1,168.1	662.8	645.0	1,307.9	2,476.1	-1.6%	
調整額	-89.9	-39.1	-20.3	-16.5	-36.8	-76.0	-	
合計	2,427.2	1,129.0	642.5	628.5	1,271.0	2,400.0	-1.1%	

左棒: 2017年度
右棒: 2018年度



※セグメント間の内部売上高又は振替高を含んでいます。

SHARP

7

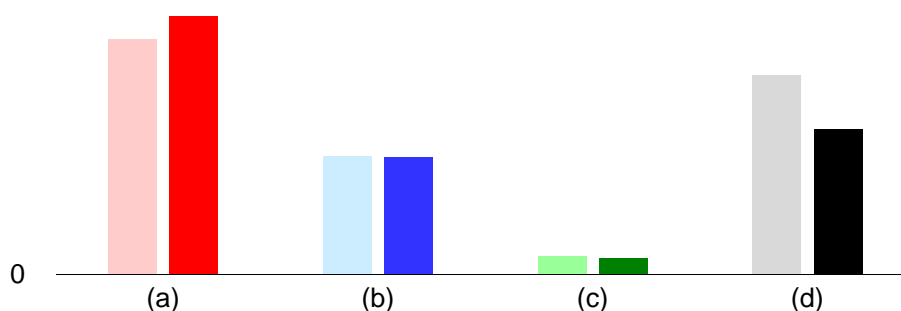
- ・次のスライドは、セグメント別 売上高の一覧です。
 - ・スマート ホームの売上高は、前年度比 14.6%増の 6,969億円となりました。
エアコンや洗濯機のほか、エネルギー ソリューションのEPC事業が大きく伸長し、冷蔵庫なども好調でした。
また、Dynabook株式会社を 連結した 効果もありました。
 - ・スマート ビジネス ソリューションは、海外の複合機などが堅調で、0.7%増の 3,204億円となりました。
 - ・IoT エレクトロデバイスは、半導体は伸長したものの、大手顧客向けセンサーモジュールが 前年度を下回り、1.1%減の 4,990億円となりました。
 - ・アドバンス ディスプレイ システムは、中国でテレビの販売を抑制したこと、スマートフォン用パネルの売上が 減少したことなどから、11.7%減の 9,596億円となりました。
- なお、液晶テレビ事業で アジア地域の販売が 伸長し、ディスプレイ事業で PC・タブレットをはじめ 中型パネルの売上が 増加するなど、当社が注力する 地域・領域での事業拡大は 着実に進展しております。

セグメント別営業利益

※()内の数字は営業利益率です。(単位:十億円)

	2017年度	2018年度						前年比
	通期	上期	3Q	4Q	下期	通期		
(a) スマートホーム	43.7 (7.2%)	23.3 (7.8%)	10.8 (6.1%)	13.8 (6.3%)	24.7 (6.2%)	48.0 (6.9%)	+9.8%	
(b) スマートビジネスソリューション	21.9 (6.9%)	9.0 (5.7%)	5.9 (7.5%)	6.7 (8.1%)	12.6 (7.8%)	21.6 (6.8%)	-1.2%	
(c) IoTエレクトロデバイス	3.3 (0.7%)	0.2 (0.1%)	2.5 (1.8%)	0.0 (0.1%)	2.6 (1.1%)	2.8 (0.6%)	-13.1%	
(d) アドバンスディスプレイシステム	37.0 (3.4%)	19.0 (4.1%)	7.8 (2.9%)	0.1 (0.1%)	8.0 (1.6%)	27.0 (2.8%)	-26.9%	
小計	106.0 (4.2%)	51.6 (4.4%)	27.2 (4.1%)	20.8 (3.2%)	48.0 (3.7%)	99.6 (4.0%)	-6.0%	
調整額	-15.9	-4.6	-5.9	-4.9	-10.9	-15.5	-	
合計	90.1 (3.7%)	47.0 (4.2%)	21.2 (3.3%)	15.8 (2.5%)	37.1 (2.9%)	84.1 (3.5%)	-6.6%	

左棒：2017年度
右棒：2018年度



SHARP

8

- ・ 続いては、セグメント別営業利益の一覧になります。
各セグメントとも黒字になっております。
- ・ スマートホームの営業利益は、前年度比9.8%増の480億円となりました。
白物家電を中心に販売が増加したことに加え、コストダウンが進んだことによるものです。
なお、Dynabook株式会社は、連結後の下期トータルで黒字化しております。
- ・ スマートビジネスソリューションは、価格下落の影響はあったものの、販売が伸長したなどから、ほぼ横ばいの216億円となりました。
- ・ IoTエレクトロデバイスは、
半導体が伸長したほか、コストダウンにも取り組みましたが、
大手顧客の需要変動の影響や成長投資に伴う償却費の増加などがあり、
28億円の黒字にとどまりました。
- ・ アドバンスディスプレイシステムは、
米中貿易摩擦の影響等による市況の悪化や、競争環境の激化、
有機ELディスプレイの立ち上げ費用などもあるなか、
コストダウンを推進したこともあり、270億円の収益を確保しました。

営業外損益・特別損益・法人税等の概要

(単位:十億円)

	2017年度	2018年度					
	通期	上期	3Q	4Q	下期	通期	前同 増減額
営業利益	90.1	47.0	21.2	15.8	37.1	84.1	-6.0
営業外損益	-0.8	-3.7	-2.4	-8.8	-11.3	-15.1	-14.3
内:支払利息	-4.8	-2.1	-1.1	-1.0	-2.1	-4.3	+0.5
為替差損益	+6.4	-3.6	-0.7	-1.3	-2.1	-5.7	-12.1
持分法による投資損益	+0.1	-3.2	-1.9	-4.1	-6.1	-9.3	-9.4
経常利益	89.3	43.2	18.8	6.9	25.7	69.0	-20.3
特別損益	0.0	+1.3	+6.5	-1.3	+5.2	+6.5	+6.5
税前利益	89.4	44.5	25.3	5.6	31.0	75.5	-13.9
法人税等 他	-19.1	-3.6	-3.2	+5.4	+2.2	-1.3	+17.8
親会社株主に帰属する 当期純利益	70.2	40.9	22.1	11.1	33.2	74.2	+4.0

SHARP

9

- ・ 次のスライドは、主な「営業外損益」・「特別損益」・「法人税等」の概要です。
 - ・ 2018年度は、「営業外損益」として、
堺ディスプレイプロダクトなどに係る「持分法による投資損失」や
「為替差損」などがありました。
- また、「特別損益」としては「固定資産売却益」などがありました。

連結貸借対照表推移

- ・2019年1月30日に 手元資金 約851億円で A種種類株式の一部取得・消却を行った
- ・これに伴い、3月末の現預金・純資産・自己資本比率は、12月末から減少
- ・上記の影響を除くと、いずれも12月末から改善

	2017年度		2018年度			2017年度		2018年度	
	3月末	12月末	12月末	3月末		3月末	12月末	12月末	3月末
現預金	422.3	295.7	266.6	(2018年12月末比) A種種類株式の 取得 -85.1 その他 +56.0	支払手形・買掛金	429.4	467.4	410.3	
受取手形・売掛金	471.5	540.6	539.9		短期借入金	81.2	68.3	81.4	
たな卸資産	219.7	278.3	243.8		1年内社債	10.0	40.0	30.0	
その他	103.6	105.2	90.9		その他	312.7	269.1	291.3	
流動資産計	1,217.1	1,220.0	1,141.3		流動負債計	833.4	844.9	813.1	
有形固定資産	428.5	419.9	405.0		社債	30.0	0.0	0.0	
無形固定資産	44.7	43.9	39.6		長期借入金	507.0	528.6	538.2	(2018年12月末比) A種種類株式の 取得 -85.1 その他 +12.9
投資その他資産	217.8	278.8	280.2		その他	136.2	144.3	142.5	
固定資産計	691.2	742.6	724.9		固定負債計	673.2	673.0	680.7	
繰延資産	0.0	0.0	0.0		純資産	401.7	444.6	372.4	
資産合計	1,908.4	1,962.6	1,866.3		負債純資産合計	1,908.4	1,962.6	1,866.3	A種種類株式の 取得影響除く 22.3%
期末日レート					自己資本比率	19.8%	21.6%	18.8%	
ドル円	105.27	109.91	110.01		自己資本	378.3	423.2	350.6	
ユーロ円	129.08	125.38	123.06						

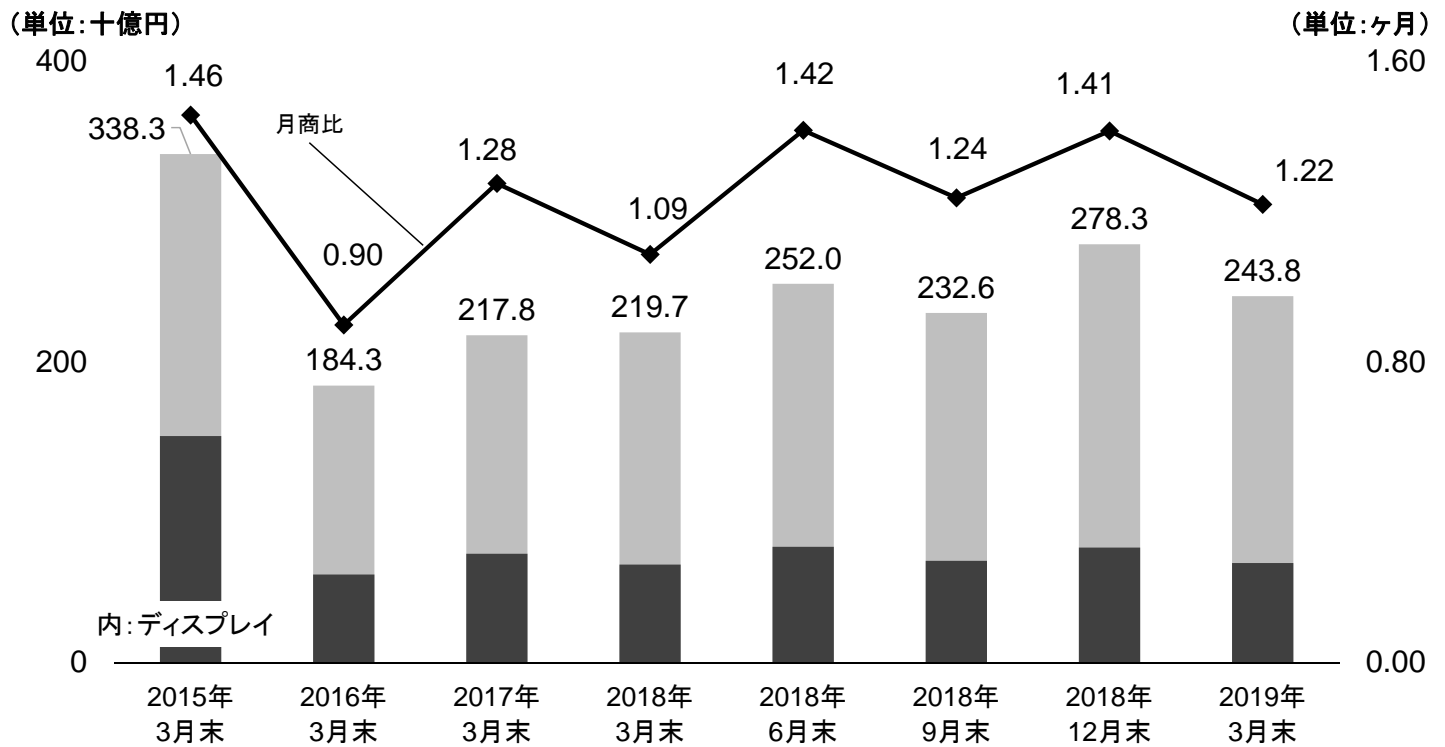
SHARP

10

- ・ 次のスライドは、貸借対照表の推移です。
- ・ 当社では、2019年1月30日に、手元資金 約851億円を活用して、A種種類株式の一部取得・消却を行いました。
- ・ そのため、
「現預金」は 第3四半期末の2,957億円から 2,666億円に、
「純資産」は 4,446億円から 3,724億円に、それぞれ減少しています。
また、「自己資本比率」は、第3四半期末の21.6%に対し、
18.8%となっております。
- ・ なお、特殊要因である A種種類株式の一部取得・消却の影響を除くと
「現預金」「純資産」「自己資本比率」は、第3四半期末から 改善しております。

たな卸資産の推移

- ・たな卸資産は、2018年12月末の2,783億円に対し、2,438億円に減少
- ・今後の販売計画等を勘案し、引き続き適正な在庫水準を維持



SHARP

11

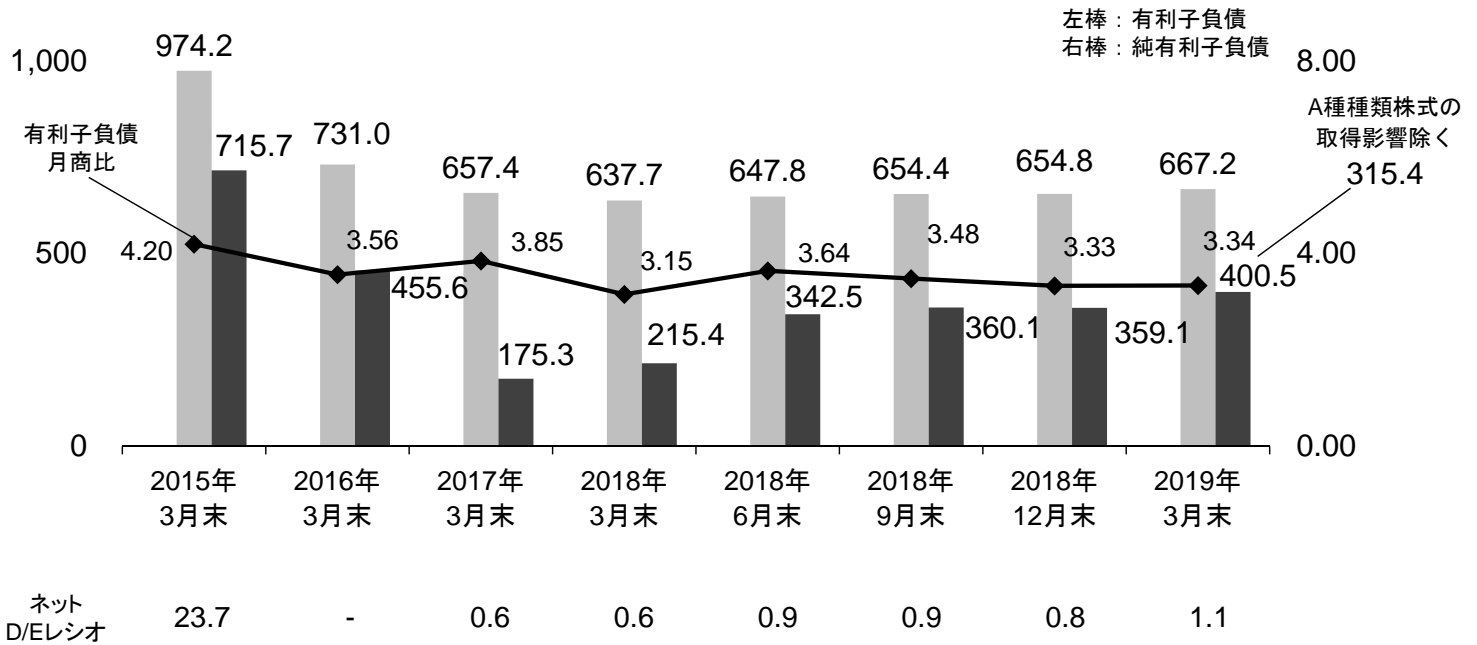
- ・ 次のスライドは、「たな卸資産」の推移です。
- ・ 2018年度末の「たな卸資産」は、第3四半期末の2,783億円から2,438億円に減少し、月商比でも0.19ヶ月減の1.22ヶ月となりました。第3四半期末、米中貿易摩擦による需要変動の影響などから一時的に増加した在庫も解消しております。
- ・ 今後も、需要動向や販売リスクなどを適時把握し、引き続き適正な在庫水準を維持してまいります。

有利子負債の推移

- ・2019年3月末の有利子負債は、2018年12月末の6,548億円から、6,672億円に
月商比は、ほぼ横ばいの3.34ヶ月
- ・純有利子負債※は、3,591億円に対し、4,005億円になるも
A種種類株式の一部取得に伴い 現預金が減少した影響を除くと減少

(単位:十億円)

(単位:ヶ月)



※純有利子負債：有利子負債 - 現預金

SHARP

12

- ・ 次のスライドは、有利子負債の推移です。
- ・ 2018年度末の有利子負債は、
第3四半期末の6,548億円から、6,672億円となりました。

純有利子負債は、414億円増の 4,005億円となりましたが、
A種種類株式の一部取得に伴い、現預金が減少した 影響を除くと
437億円の減少となっております。
- ・ 引き続き在庫の適正化や、効率的な設備投資の実施に努め、
キャッシュフローの改善を図ります。

Ⅱ．2019年度 連結業績予想

- ・ 次は、2019年度の連結業績予想です。

2019年度 通期 連結業績予想(1)

- ・ 当面は 厳しい事業環境が継続するものの、8K+5G EcosystemとAIoTの最先端技術で 特長商品・サービスを創出するとともに グローバルブランドの強化を図り、 売上高・各利益とも 2018年度を上回る 予想
- ・ さらなるコストダウンに取り組むとともに、 事業を展開する空間を広げ、 収益力強化と事業拡大の両立を図る
- ・ 商品事業は 引き続き順調に成長すると見ており、 デバイス事業についても 業界との合作により 実力を向上させ 伸長する見込み
- ・ 引き続き 資本の質的向上も進める

SHARP

14

- ・ 次のスライドをご覧ください。
- ・ 2019年度も、 米中貿易摩擦や 顧客の需要変動の影響など、 厳しい事業環境が継続し、 第1四半期は、特に厳しいものになると 考えております。 これに伴う 相応の影響は受けると見ておりますが、 8K+5G EcosystemとAIoTの最先端技術で 特長商品・サービスを 創出するとともに、 グローバルブランドの強化を図り、 通期では、 売上高・各利益とも 前年度を上回る予想としております。
- ・ 2018年度、当社は 収益力の強化を 押し進めてまいりました。 2019年度は、さらなるコストダウンに 取り組むとともに、 事業を展開する空間を広げ、 収益力強化と 事業拡大の両立を図ってまいります。
- ・ なお、事業別では、商品事業が 引き続き 順調に成長し、 デバイス事業は、業界との合作により 実力を向上させ、 第2四半期以降、伸長すると見ております。
- ・ また、2018年度に続き、資本の質の向上にも 取り組んでまいります。

2019年度 通期 連結業績予想(2)

(単位:十億円)

	2018年度			2019年度			
	上期	下期	通期	上期予想	下期予想	通期予想	前年比
売上高	1,129.0	1,271.0	2,400.0	1,200.0	1,450.0	2,650.0	+10.4%
営業利益 (利益率)	47.0 (4.2%)	37.1 (2.9%)	84.1 (3.5%)	44.0 (3.7%)	56.0 (3.9%)	100.0 (3.8%)	+18.8%
経常利益 (利益率)	43.2 (3.8%)	25.7 (2.0%)	69.0 (2.9%)	42.0 (3.5%)	53.0 (3.7%)	95.0 (3.6%)	+37.7%
親会社株主に帰属する 当期純利益 (利益率)	40.9 (3.6%)	33.2 (2.6%)	74.2 (3.1%)	37.0 (3.1%)	43.0 (3.0%)	80.0 (3.0%)	+7.8%
平均為替レート							
ドル円	109.27	110.55	109.91			105.00	
ユーロ円	128.34	125.47	126.90			125.00	

SHARP

15

- ・ 次のスライドは、2019年度の業績予想数値です。
- ・ 売上高は 前年度比 10.4%増の 2兆6,500億円、
営業利益は 18.8%増の 1,000億円、
経常利益は 37.7%増の 950億円、
親会社株主に帰属する当期純利益は 7.8%増の 800億円としております。
- ・ 事業環境は、中期経営計画を策定した際の想定に比べ、
厳しいものになっています。

こうした状況に対応し、事業拡大より 収益力強化を優先するとの判断のもと、
「量から質へ」の転換に取り組んだことなどから、
2018年度は、前年度を上回る 最終利益を 確保することができました。

2019年度は、改めて 販売の強化にも取り組み、
収益力強化と 事業拡大の両立を 図ってまいります。

当社の目指す方向性

独自の最先端技術を核に次々と新規事業を創出し、
様々な事業分野でイノベーションを実現



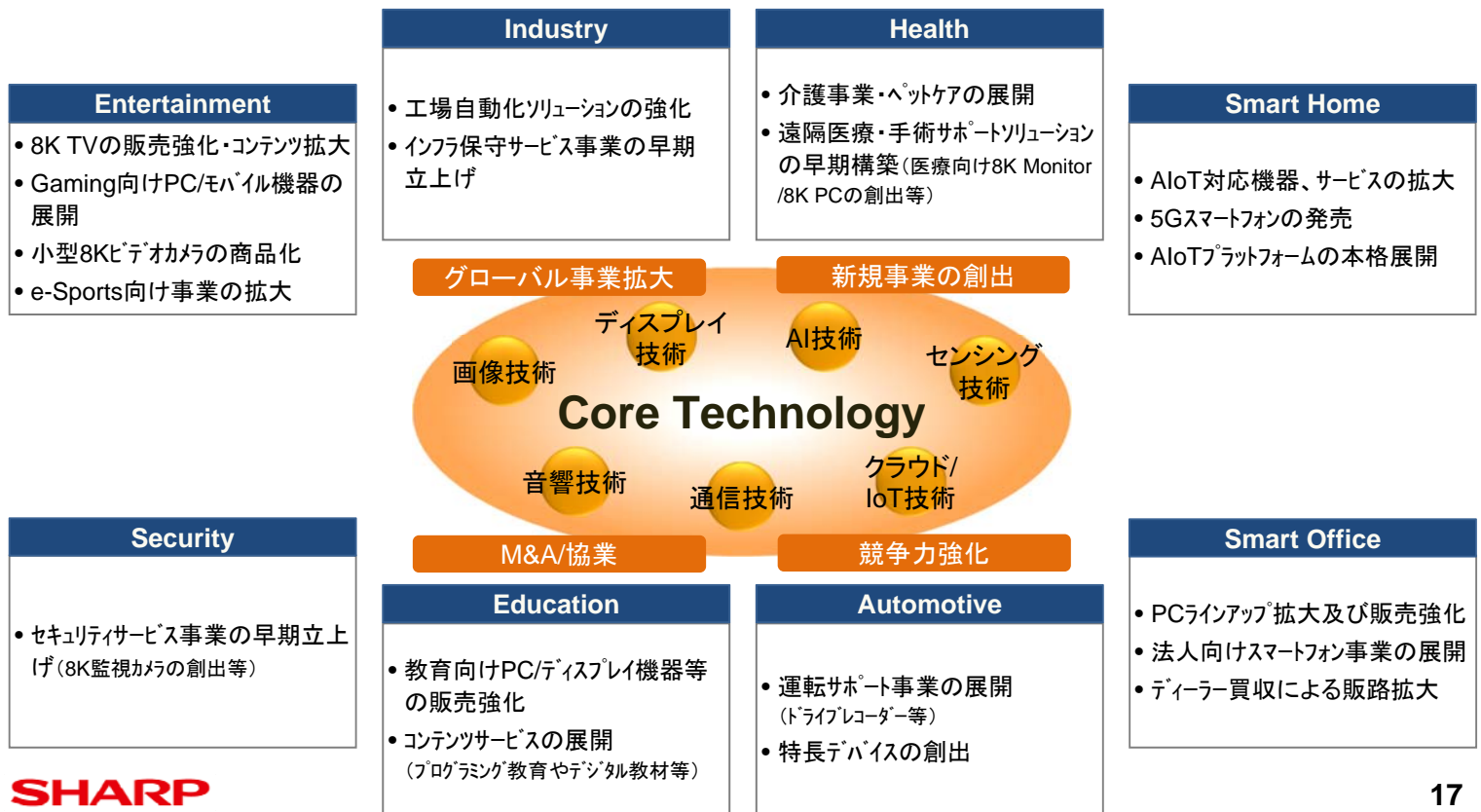
16

- ・ 次のスライドをご覧ください。
2019年度の取り組みのベースとなる 当社の目指す方向性です。
- ・ 当社は、ディスプレイ技術、通信技術、クラウド / IoT技術、センシング技術など、数多く独自の最先端技術を 保有しております。

これら技術を核に、次々と新規事業を創出し、
スマートホームや スマートオフィス、エンターテインメント、インダストリーといった
さまざまな事業分野で、イノベーションを実現してまいります。

2019年度の主な取り組み（1）

各事業分野において、特長商品・サービスを次々と創出



・ 次のスライドは、2019年度の主な取り組みです。

・ 当社の目指す方向性に沿って、「グローバル事業拡大」「新規事業の創出」「M&A/協業」「競争力強化」を進め、特長商品・サービスを創出してまいります。

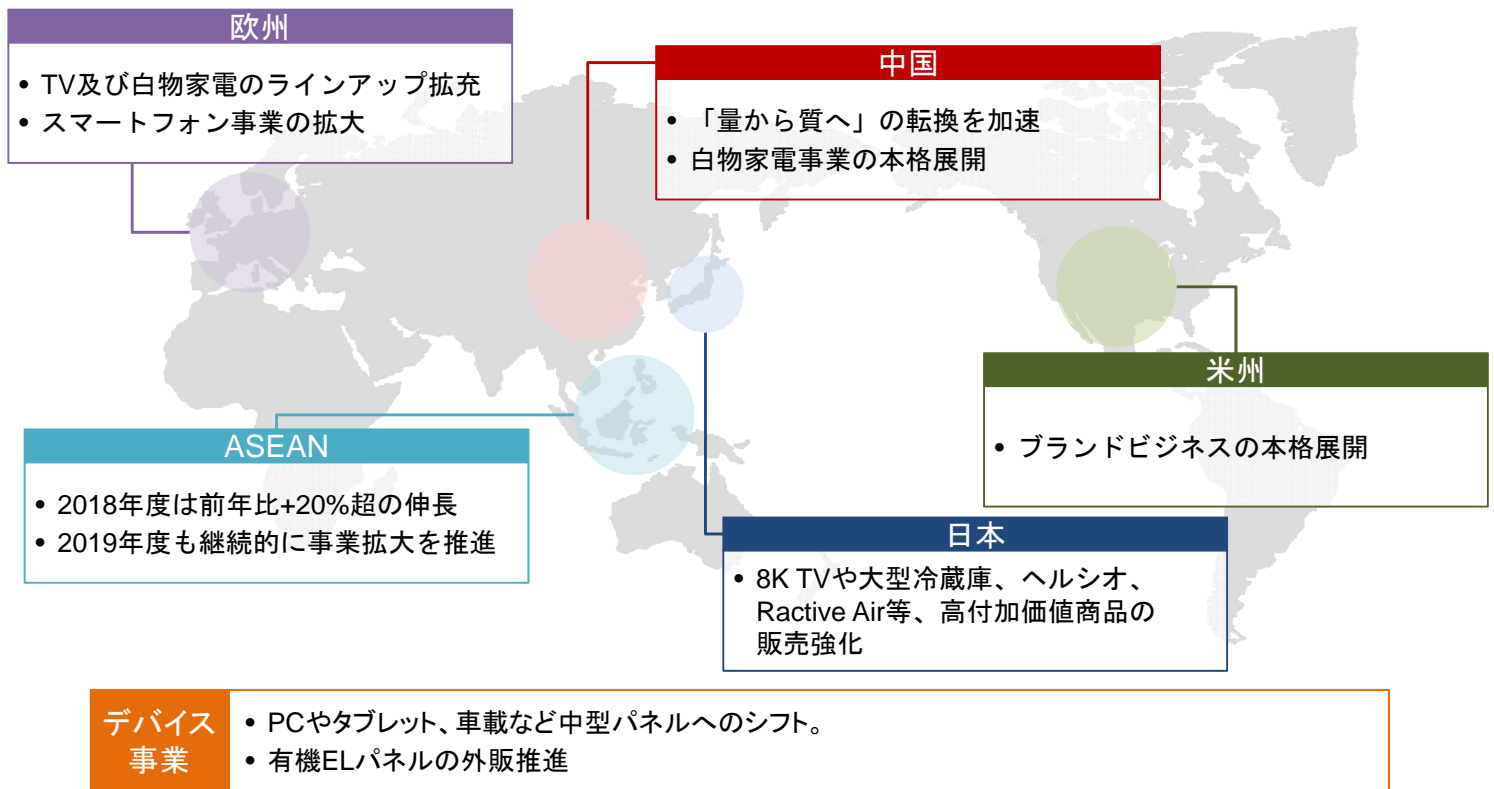
ご覧のように、スマート ホームでは、AIoT対応機器や サービスの拡大、5Gスマートフォンの発売などを図ります。

このほか、エンターテインメントでは、8Kテレビの販売強化や コンテンツの拡大、小型8Kビデオカメラの商品化などに取り組めます。

また、その他の事業分野につきましても、具体的な取り組みを スライドに記載させていただいておりますので、ご確認いただければと思います。

2019年度の主な取り組み（2）

グローバルブランド企業“SHARP”の確立を加速



SHARP

18

- ・ 次のスライドをご覧ください
- ・ 2019年度、当社では、特長商品・サービスを次々と創出するとともに、グローバルブランド企業“SHARP”の確立も加速してまいります。

これに向け、商品事業では

中国で、「量から質へ」の転換を加速させるとともに、白物家電事業を本格展開し、米州で、ブランドビジネスの本格展開を図るなど、各地域でのニーズと当社の強みを考慮した効果的な取り組みを進めてまいります。

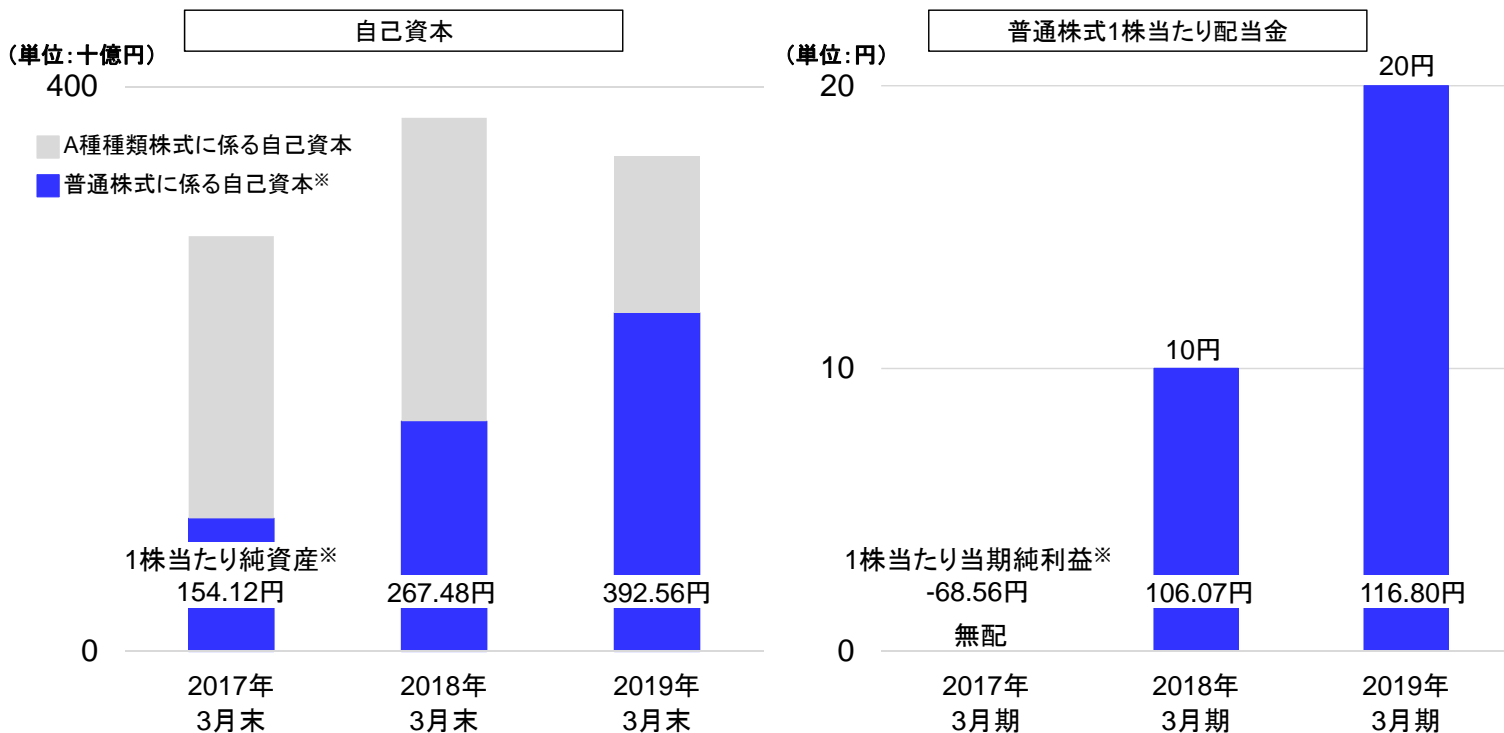
また、デバイス事業では、IGZOなど長年に亘って培ってきた技術を活用し、中型パネルへのシフト、有機ELパネルの外販推進などに取り組みます。

Ⅲ. 資本政策・株主還元

- ・ 次は、資本政策・株主還元についてです。

資本政策・株主還元について

- ・継続的な利益の積み上げにより、普通株式に係る自己資本[※]は着実に増加
- ・希薄化リスクや優先配当などを有するA種種類株式の一部取得・消却により、資本の質が向上
- ・当社としては、残分についても、手元資金を活用し、同等の条件で、6月末に取得したいと考えている
- ・事業・財務の状況等を総合的に勘案し、前年度を上回る配当を実施



SHARP

※普通株式と同等株式であるC種種類株式を含む

20

- ・ 次のスライドをご覧ください。
- ・ ご覧のとおり、利益の積み上げが進んでいることから、普通株式に係る自己資本は着実に増加しています。
- ・ こうした状況のもと、2018年度は、資本の質を向上させ、普通株式の価値を高めるという観点から、希薄化リスクや優先配当などを有するA種種類株式20万株の内、9万2千株を取得・消却いたしました。
当社としては、残りの10万8千株についても、手元資金を活用し、これと同等の条件で、6月末に取得したいと考えております。
- ・ また、配当については、2017年度、6年ぶりに復配いたしました。
当面、厳しい市場環境が続くと考えておりますが、足許の業績や財務の状況、今後の事業展開等を総合的に勘案し、2018年度は、前年度から10円増配となる1株当たり20円の配当を実施します。
2019年度につきましても、資本の質の向上や業績の改善により、2018年を上回る配当を目指してまいります。

IV. 補足資料

- ・ 補足資料として、「セグメント別売上高・営業利益」等の実績をまとめております。
- ・ 事業面でのさまざまな施策に加え、
資本政策・資金政策についても 適時適切に実行してまいります。

これにより、収益力強化と 事業拡大を実現するだけでなく、
同時に、財務体質の改善や 株主還元も進めてまいります。

そして、株主をはじめ、すべてのステークホルダーの利益の最大化を
図ってまいります。

- ・ ご清聴ありがとうございました。

連結業績概要

(単位:十億円)

	2017年度			2018年度		
	上期	下期	通期	上期	下期	通期
売上高	1,115.1	1,312.1	2,427.2	1,129.0	1,271.0	2,400.0
営業利益	40.5	49.5	90.1	47.0	37.1	84.1
(利益率)	(3.6%)	(3.8%)	(3.7%)	(4.2%)	(2.9%)	(3.5%)
経常利益	41.1	48.1	89.3	43.2	25.7	69.0
(利益率)	(3.7%)	(3.7%)	(3.7%)	(3.8%)	(2.0%)	(2.9%)
親会社株主に帰属する 当期純利益	34.7	35.4	70.2	40.9	33.2	74.2
(利益率)	(3.1%)	(2.7%)	(2.9%)	(3.6%)	(2.6%)	(3.1%)

四半期 連結業績概要

(単位:十億円)

	2017年度				2018年度			
	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q
売上高	506.4	608.7	714.2	597.8	533.8	595.1	642.5	628.5
営業利益	17.1	23.4	29.7	19.7	24.8	22.2	21.2	15.8
(利益率)	(3.4%)	(3.9%)	(4.2%)	(3.3%)	(4.6%)	(3.7%)	(3.3%)	(2.5%)
経常利益	17.1	23.9	29.9	18.2	21.2	21.9	18.8	6.9
(利益率)	(3.4%)	(3.9%)	(4.2%)	(3.0%)	(4.0%)	(3.7%)	(2.9%)	(1.1%)
親会社株主に帰属する 四半期純利益	14.4	20.2	20.6	14.8	19.2	21.7	22.1	11.1
(利益率)	(2.9%)	(3.3%)	(2.9%)	(2.5%)	(3.6%)	(3.7%)	(3.4%)	(1.8%)

セグメント別売上高

(単位:十億円)

	2017年度			2018年度		
	上期	下期	通期	上期	下期	通期
スマートホーム	290.6	317.3	607.9	300.6	396.3	696.9
スマートビジネスソリューション	154.4	163.6	318.0	158.4	161.9	320.4
IoTエレクトロデバイス	200.4	304.0	504.5	250.8	248.2	499.0
アドバンスディスプレイシステム	521.6	564.9	1,086.5	458.2	501.4	959.6
小計	1,167.2	1,349.9	2,517.2	1,168.1	1,307.9	2,476.1
調整額	-52.0	-37.8	-89.9	-39.1	-36.8	-76.0
合計	1,115.1	1,312.1	2,427.2	1,129.0	1,271.0	2,400.0

※セグメント間の内部売上高又は振替高を含んでいます。

セグメント別営業利益

(単位:十億円)

	2017年度			2018年度		
	上期	下期	通期	上期	下期	通期
スマートホーム	20.4 (7.0%)	23.2 (7.3%)	43.7 (7.2%)	23.3 (7.8%)	24.7 (6.2%)	48.0 (6.9%)
スマートビジネスソリューション	9.7 (6.3%)	12.2 (7.5%)	21.9 (6.9%)	9.0 (5.7%)	12.6 (7.8%)	21.6 (6.8%)
IoTエレクトロデバイス	2.7 (1.4%)	0.5 (0.2%)	3.3 (0.7%)	0.2 (0.1%)	2.6 (1.1%)	2.8 (0.6%)
アドバンスディスプレイシステム	16.3 (3.1%)	20.6 (3.7%)	37.0 (3.4%)	19.0 (4.1%)	8.0 (1.6%)	27.0 (2.8%)
小計	49.3 (4.2%)	56.7 (4.2%)	106.0 (4.2%)	51.6 (4.4%)	48.0 (3.7%)	99.6 (4.0%)
調整額	-8.7	-7.1	-15.9	-4.6	-10.9	-15.5
合計	40.5 (3.6%)	49.5 (3.8%)	90.1 (3.7%)	47.0 (4.2%)	37.1 (2.9%)	84.1 (3.5%)

※()内の数字は営業利益率です。

四半期 セグメント別売上高

(単位:十億円)

	2017年度				2018年度			
	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q
スマートホーム	130.2	160.4	148.9	168.3	150.5	150.0	178.6	217.7
スマートビジネスソリューション	70.3	84.0	77.3	86.2	76.5	81.9	79.2	82.6
IoTエレクトロデバイス	85.0	115.4	192.2	111.8	113.3	137.4	137.7	110.5
アドバンスディスプレイシステム	249.6	271.9	314.6	250.2	211.1	247.1	267.2	234.1
小計	535.3	631.9	733.2	616.7	551.5	616.6	662.8	645.0
調整額	-28.8	-23.1	-18.9	-18.9	-17.6	-21.4	-20.3	-16.5
合計	506.4	608.7	714.2	597.8	533.8	595.1	642.5	628.5

※セグメント間の内部売上高又は振替高を含んでいます。

四半期 セグメント別営業利益

(単位:十億円)

	2017年度				2018年度			
	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q
スマートホーム	9.9 (7.6%)	10.5 (6.6%)	10.6 (7.2%)	12.5 (7.5%)	11.8 (7.9%)	11.4 (7.6%)	10.8 (6.1%)	13.8 (6.3%)
スマートビジネスソリューション	3.8 (5.4%)	5.9 (7.0%)	4.1 (5.3%)	8.1 (9.4%)	3.9 (5.2%)	5.0 (6.1%)	5.9 (7.5%)	6.7 (8.1%)
IoTエレクトロデバイス	0.9 (1.1%)	1.8 (1.6%)	4.6 (2.4%)	-4.0 (-3.7%)	0.6 (0.6%)	-0.3 (-0.3%)	2.5 (1.8%)	0.0 (0.1%)
アドバンスディスプレイシステム	6.7 (2.7%)	9.6 (3.5%)	13.1 (4.2%)	7.4 (3.0%)	10.5 (5.0%)	8.4 (3.4%)	7.8 (2.9%)	0.1 (0.1%)
小計	21.4 (4.0%)	27.8 (4.4%)	32.6 (4.4%)	24.0 (3.9%)	27.0 (4.9%)	24.5 (4.0%)	27.2 (4.1%)	20.8 (3.2%)
調整額	-4.3	-4.4	-2.8	-4.3	-2.2	-2.3	-5.9	-4.9
合計	17.1 (3.4%)	23.4 (3.9%)	29.7 (4.2%)	19.7 (3.3%)	24.8 (4.6%)	22.2 (3.7%)	21.2 (3.3%)	15.8 (2.5%)

※()内の数字は営業利益率です。

設備投資・減価償却費等

(単位:十億円)

	2017年度			2018年度			2019年度
	上期	下期	通期	上期	下期	通期	通期予想
設備投資	73.2	46.1	119.3	27.8	28.1	55.9	76.0
内:ディスプレイ	16.7	18.7	35.5	9.2	14.5	23.8	35.7
減価償却費	28.8	39.6	68.4	34.5	37.3	71.9	80.0
研究開発費	50.2	50.2	100.5	53.8	54.7	108.5	110.0

(単位:円)

平均為替レート	2017年度			2018年度			2019年度
	上期	下期	通期	上期	下期	通期	通期予想
米ドル	110.07	109.64	109.86	109.27	110.55	109.91	105.00
ユーロ	124.79	131.62	128.20	128.34	125.47	126.90	125.00

四半期 設備投資・減価償却費等

(単位:十億円)

	2017年度				2018年度			
	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q
設備投資	18.8	54.4	33.7	12.3	11.3	16.4	14.7	13.4
内:ディスプレイ	3.2	13.5	11.0	7.7	4.4	4.7	8.3	6.2
減価償却費	14.1	14.6	19.4	20.1	17.1	17.3	18.9	18.4
研究開発費	28.7	21.5	30.8	19.3	30.4	23.3	32.0	22.6

(単位:円)

平均為替レート	2017年度				2018年度			
	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q
米ドル	110.10	110.04	111.98	107.30	108.07	110.46	111.90	109.21
ユーロ	120.69	128.88	131.51	131.73	128.56	128.12	127.28	123.66

SHARP

Be Original.

